

第16回全国障害者芸術・文化祭あいち大会 プレイベント

美術が〈商品〉であるとともに未来への〈贈与〉であることを力強く主張しつつ、美術のみならず、政治・経済・文化、そして社会そのものが、〈芸術〉であるような未来へ向けて、現在の腐朽した美術の在り方を根柢から問い直す本音トーク。

【贈与としての美術】

2016年9月29日（木）18時～21時

会場／長者町トランジットビルディング 2A トランジットスタジオ（入場無料）

（名古屋市中区錦2丁目11-13）※定員は30名です。定員なり次第締め切ります。



白川昌生×村林真哉

司会／鈴木敏春（美術批評・NPO愛知アートコレクティブ）

白川 昌生氏（しらかわ・よしお）

1948年福岡県北九州市戸畑生まれ。1970年に渡欧、ストラスブール大学文学部哲学科にて哲学を専攻。1974年パリ国立美術学校入学、1981年国立デュッセルドルフ美術大学を卒業、マイスターの称号を受ける。1983年に帰国し、1993年に地域とアートをつなぐ美術活動団体「場所・群馬」を創設。2002年北九州ビエンナーレでの「アートと経済の恋愛学」（北九州市立美術館）、2007年「フィールドキャラバン計画」（群馬県立近代美術館）など、国内外で活躍する。美術家としての活動の他に評論執筆活動も盛んに行う。主な著書に（以下、いずれも水声社）『日本のダダ 1920-1970』（1988・2005）、『美術、市場、地域通貨をめぐって』（2001）、『美術・記憶・生』（2007）、『美術館・動物園・精神科施設』（2010）など。

村林真哉氏（むらばやし・しんや）

1962年三重県多気町に生まれる。1986年大阪芸術大学卒業後、武蔵野美術大学短期大学を経て、1989年から1991年までドイツ・デュッセルドルフに留学。シュタイナーやボイスに影響を受ける。1988年、1989年東京都美術館で開催された「現代美術展」に2年連続で入選。松阪文化財センターで開催された「地域の作家展」にも出品している。1991年から東京や東海地域で個展を開催。その他、美術専門誌POSIに「シュタイナー、ボイスとの出会いのなかから」を随筆。現在は、松阪市内の障害者施設園長として利用者に美術指導を行う傍ら、自由芸術教室等を主宰するなど、幅広い活動を行っている。三重県 松阪市 希望の園園長・2009年4月から現在。NPO法人希望の園 まつさかチャレンジドブレイス希望の園主宰 インストラクター・1996年10月から現在。

問い合わせ先／

第16回障害者芸術・文化祭実行委員会事務局（愛知県健康福祉部障害福祉課内）

〒460-8501 名古屋市中区三の丸3-1-2

電話 | 052-954-6697 FAX | 052-954-6920

Email | powerofart@pref.aichi.lg.jp



第16回全国障害者芸術・文化祭あいち大会とは、全国から障害のある方の美術・文芸作品、音楽やダンス等の舞台芸術を募集し発表する芸術祭です。

会期：2016年12月9日（金）～11日（日）※美術・文芸作品展は12月3日（土）～11日（日）

会場：愛知芸術文化センター、名古屋市民ギャラリー栄、ナディアパークなどの名古屋市長周辺

主催：厚生労働省、愛知県、名古屋市